

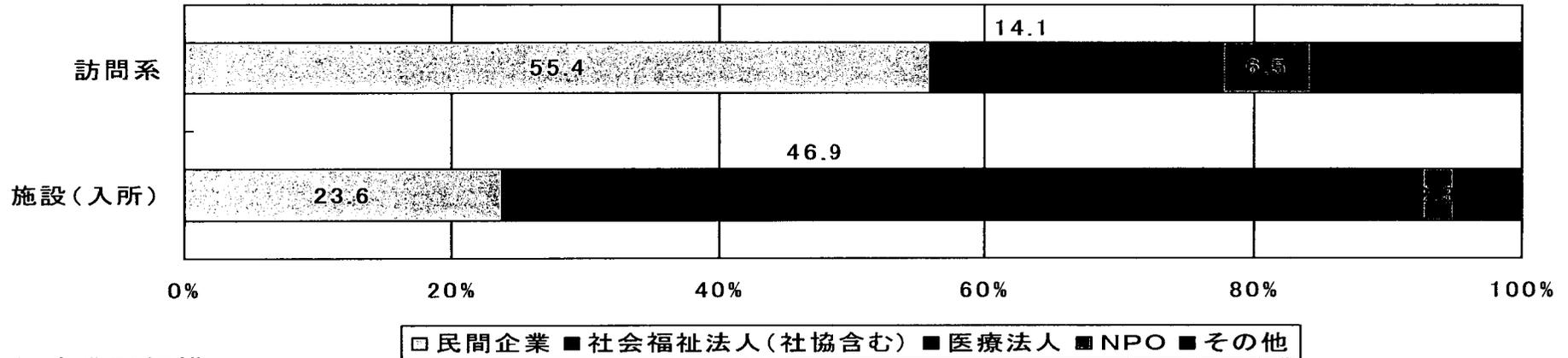
付属資料2

介護労働の現状について

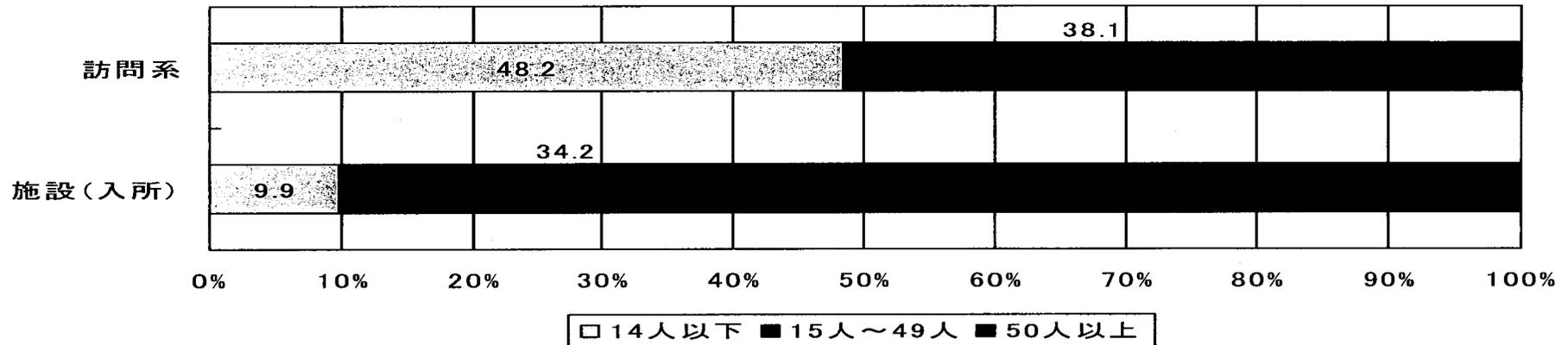
1 事業所の属性

- 訪問系の事業所は民間企業が多く、施設(入所)系の事業所は社会福祉法人が多い。
- 訪問系の事業所は、比較的小規模の事業所が多い。

(1) 事業主体



(2) 事業所規模



(出典)平成18年介護労働実態調査((財)介護労働安定センター)

2 労働者の属性

- 福祉施設介護員やホームヘルパーは、全産業と比較して、女性労働者の比率が高く、勤続年数は短い。また、きまって支給する現金給与額も、全産業と比較して低い。
- 訪問系の事業所では、非正社員の労働者が多い。

(1) 一般労働者の男女比、平均年齢、勤続年数及び平均賃金

	男				女			
	構成比	平均年齢	勤続年数	きまって支給する現金給与額	構成比	平均年齢	勤続年数	きまって支給する現金給与額
全産業	68.8%	41.8歳	13.5年	372.7千円	31.2%	39.1歳	8.8年	238.6千円
福祉施設介護員	29.2%	33.2歳	4.9年	227.1千円	70.8%	37.2歳	5.3年	206.4千円
ホームヘルパー	15.2%	37.6歳	3.9年	230.6千円	84.8%	44.7歳	4.5年	197.0千円

(出典)平成18年賃金構造基本統計調査(厚生労働省)。調査時点:平成18年7月。

一般労働者とは短時間労働者以外の労働者であり、正規雇用・非正規雇用を問わない。

(2) 労働者の就業形態

	正社員	非正社員
施設(入所)	65.0%	34.8%
訪問系	34.3%	65.3%

(出典)平成18年介護労働実態調査((財)介護労働安定センター)

3 現在の事業所に就職した理由（複数回答）

○現在の事業所に就職した理由について、女性労働者は男性労働者と比較して、勤務日時が短いこと、通勤が便利であること、自分の都合の良い時間に働けること、家庭の事情や他の活動と両立がしやすいことを理由に挙げる者が多い。

	男性	女性
経営が健全であり、将来的に安定しているから	18.2%	13.7%
やりたい職種・仕事内容だから	50.7%	51.9%
より収入の多い仕事に従事したかったから	6.8%	8.0%
勤務時間や労働日数が短いから	4.0%	8.3%
通勤が便利だから	20.8%	35.6%
自分の都合の良い時間に働けるから	3.3%	14.8%
家族や知人の勧めや紹介があったから	24.1%	25.1%
家庭の事情や他の活動と両立しやすいから	7.0%	13.7%
職員への教育研修が充実して、キャリアアップが図れるから	3.7%	3.8%
優れた経営者がいるから	7.1%	4.6%
その他	7.0%	6.7%
特別な理由はない	10.4%	4.9%

4 労働時間（1週）

- 訪問系の事業所は施設（入所）系の事業所と比べ、1週間当たりの労働時間が比較的短い。
- 非正社員の約半数は、1週当たりの労働時間が30時間未満である。

(1) 1週間の労働時間数（サービス系別）

	30時間未満	30時間以上
訪問系	29.7%	66.3%
施設（入所）	7.8%	88.0%

(2) 1週間の労働時間数（就業形態別）

	30時間未満	30時間以上
正社員	4.6%	91.4%
非正社員	46.7%	49.8%

(3) 業務終了時の退勤の状況（主に訪問介護員）

- 直帰する者の割合 正社員：8.5% 非正社員：42.6%

((1)~(3)の出典)平成18年介護労働実態調査((財)介護労働安定センター)

5 賃金や労働時間についての考え方（主として訪問介護員）

○ 非正社員は、収入が少なくとも都合の良い時間に働ける方が良いと考えている者の割合が高い。

○ 賃金や労働時間についての考え方(主として訪問介護員)

	正社員	非正社員
収入が少なくとも都合の良い時間に働ける方が良い	36.0%	62.3%
毎月定まった収入があれば、曜日や時間帯にこだわらない	56.1%	44.5%

※ それぞれの項目について「大いにあてはまる」、「ややあてはまる」と回答した者の割合。

6 賃金水準

- 平均時間給は訪問介護員が介護職員より高い。
- 約4割強の訪問介護員(非正社員)は年収103万円未満である。

(1) 短時間労働者(女性)の平均時間給

ホームヘルパー : 1,296円 福祉施設介護員 : 985円

(出典)平成18年賃金構造基本統計調査

(2) 賃金の支払形態が時間給である者のうち、時間給の水準が千円未満の者の割合

訪問介護員 : 20.6% 介護職員 : 85.6%

(3) 正社員である者のうち、年収が300万円以上の者の割合

訪問介護員 : 18.5% 介護職員 : 22.6%

(4) 非正社員である者のうち、年収が103万円未満の者の割合

訪問介護員 : 42.1% 介護職員 : 28.1%

※ (2)~(4)の出典:平成18年介護労働実態調査

7 離職の状況①

- 介護職員の離職率は、全産業と比較して正社員において高い。
- 職員の定着率が低いと回答している事業所は、訪問系よりも施設(入所)系の事業所が多い。

(1) 離職率

	全体	正社員	非正社員
全産業平均	16.2%	13.1%	26.3%
介護職員	20.3%	21.7%	27.3%
ホームヘルパー		19.6%	14.0%

※全産業の出典は「平成18年度雇用動向調査結果(厚生労働省)」

※全産業については「全体」は「常用労働者」、「正社員」は「一般労働者」、「非正社員」は「パートタイム労働者」を指す。

(2) 従業員の定着状況

	定着率が低くて困っている	定着率は低いが特に困っていない	定着率は低くない
訪問系	12.7%	8.9%	70.1%
施設(入所)系	25.4%	14.4%	58.0%

(出典)平成18年介護労働実態調査((財)介護労働安定センター)

7 離職の状況②

○ 事業所規模が小さいほど、勤続年数が短いほど、離職率が高い。

(1) 事業所規模別離職率(正社員)

	14人以下	14人～99人	100人以上
訪問介護員	34.7%	42.7%	10.5%
介護職員	53.8%	59.8%	16.5%

(2) 経過年数別離職率(正社員)

	3年未満	3年～5年未満	5年以上
訪問介護員	34.4%	22.4%	14.7%
介護職員	44.5%	25.4%	16.7%

((1)及び(2)の出典)平成18年介護労働実態調査((財)介護労働安定センター)

7 離職の状況③

○ 訪問介護員、介護職員とも待遇への不満、職場の人間関係への不満、自分・家庭の事情が離職の大きな原因となっている。

○ 非正社員は、自分・家庭の事情で離職する割合が高くなっている。

(1) 前職を辞めた理由(介護労働者の職種別)

	待遇に不満があった(賃金、労働時間)ため	職場の人間関係に不満があったから	利用者との人間関係に不満があったから	腰痛等健康を害したため	新たに資格等をとったため	自分・家庭の事情(結婚・出産・転勤等)により	その他
訪問介護員	24.4%	25.8%	1.6%	7.8%	15.2%	29.8%	19.7%
介護職員	30.4%	25.6%	1.7%	7.2%	9.0%	27.8%	24.5%

(2) 前職を辞めた理由(介護労働者の就業形態別)

	待遇に不満があった(賃金、労働時間)ため	職場の人間関係に不満があったから	利用者との人間関係に不満があったから	腰痛等健康を害したため	新たに資格等をとったため	自分・家庭の事情(結婚・出産・転勤等)により	その他
正社員	29.6%	24.9%	1.3%	7.0%	15.5%	25.3%	23.7%
非正社員	21.7%	22.6%	1.7%	7.8%	11.4%	34.9%	22.2%